

伝統ある農地の継承と有機農業で農福連携

NPO法人 ラーフ・ウッド福祉会 (姫路市)



経緯

- ・平成28年頃、就労継続支援活動の一つとして、地域から農地を借受けて野菜作りを開始。
- ・当初は試行錯誤の取組であったが、徐々に面積を拡大し、有機栽培で様々な野菜や米を作るようになった。現在の作付面積は水稻50 a、野菜7 ha程度。野菜は、ミニトマト、ナス、ピーマン、キュウリ、ニンジン、オクラ、黒豆、サツマイモ、玉ねぎ等の季節に応じた多様な品目を年間を通して生産している。
- ・令和2年7月に有機JAS認証を取得。

取組内容

- ・将来の子供たちが健康で暮らせることを願い、有機栽培で様々な野菜・米を生産。地域の方が大切に守ってきた歴史ある田・畑を未来に繋げていく活動を継続。
- ・昨年より玉ねぎ3 ha、サツマイモ1 haを契約栽培し、主力作物としている。次はレタスを主力作物に加えることを検討中。
- ・夏野菜のキュウリやオクラは毎日収穫する必要があり、労働力が不足することがあるため、作業に従事できる人数を考えながら栽培する野菜を決定。
- ・農作業は種類が多いため、施設利用者の得手不得手を把握し、各自の適正にあった作業を選択し、同じ作業を同じペースでできるように配慮。農作業が難しい人は、加工食品工場やクリーニング作業に従事してもらうようにしている。

今後の展望等

- ・地域の高齢化が進み、農地を預けたいという要望があるので、作業効率の良い機械や設備を導入して規模拡大を図り、収益向上を障がい者の工賃向上につなげていきたい。
- ・生産した農産物を安定的に販売することを考え、加工食品業者向けの野菜を増やしていきたい。

2022年7月13日調査